

Sustainable Event Professional Forum 2025

参加レポート

JACE若手サステナビリティ部会のメンバーが3月18日Sustainable Event Professional Forum 2025「持続可能なイベント業界へブレイクスルーの鍵とは？」に参加しました。

SB | 2025 | TOKYO
MARUNOUCHI

talk session 01

イベントの資源循環率可視化への挑戦
～サステナビリティ実装への新たなアプローチ～



talk session 02

Sustainable Event Professional Forum
の果たした役割とは



脱炭素・資源循環の社会の実現に向けて、各業界で様々な取り組みが加速し、MICE・イベント業界においても、サステナビリティへの取り組みが求められるようになりました。このたびMICE・イベント関係者向け特別プログラム「Sustainable Event Professional Forum 2025」にJACEの若手が参加し実際に実践された各社の事例を共有、ビジネス面での成果などをお聴きしてきました。



Q.1 SB会議に参加して、気づいた(気になった)サステナブルな取組と、その理由を教えてください。

株式会社グローバルプロデュース 太田 大地

ガイドライン上の50の項目を全て実装させたサステナブルなイベントの一つの在り方を目の当たりにしたことが一番衝撃でしたし、参考になりました。サステナブルな取り組みを1つ2つ取り入れるにもそれなりの労力がかかる中、50項目を実装した際の一つの回答がこのSB会議であったと思うのでこの姿を一つ参考にとできればと思った。ただし、今回のようにサステナブルを突き詰めた際にはやはりデザイン観点としては簡素にせざるを得ないような印象もあったので、サステナブルな視点と空間デザインの視点のバランスや見せ方について、今後自分自身も意識的に取り組んでいきたいと感じた。

株式会社クラフティ 石田知大

会場に入りまず目に留まったのが各ブースの机やラウンジスペースの机・椅子が全て紙素材で作られていたことです。机や椅子を実際に触ってみて、紙素材で作られているとは思えないほど丈夫で驚きました。また、ただ丈夫だけでなく使用した後は古紙として廃棄ができる点も資源循環に配慮されていて魅力的に感じました。今回のSB会議で使用されていた紙素材で作られた机・椅子は使い勝手の良さと環境への配慮が両立されており今後様々なイベントで実装していくことがカーボンニュートラルなイベント開催を実現していくために必要だと感じました。

各ブースの中では、日本紙通商株式会社・株式会社日本デキシーブースにあった紙コップのリサイクルについての内容が興味深かったです。このブースでは、使用した紙コップをそのまま捨てる従来のやり方から、捨てる前に破碎洗浄機で洗浄することで今まではリサイクル製品化できなかったものにリサイクルできるようになる仕組みについて紹介されており、いつも当たり前のように捨てていた紙コップを洗浄することで再度紙コップとして再生できることを初めて知ることができました。今までの「当たり前」を1つずつ変えていくことが重要なのだと改めて認識する良い機会になりました。

株式会社JTB 北島 淳孝

下記のような取り組みが会場内では目につき、再利用を前提としたイベントの会場設計や仕掛けがなされ、イベントの設計そのものにサステナビリティが組み込まれていると強く感じました。今回はイベントテーマそのものが「サステナビリティ」ということでもあり当然なのかもしれないが、テーマ・目的が異なったイベントにおいても活用すべきヒントが多数ありました。

(例)・リサイクル率が高い段ボールを使用した受付、ハイテーブル等の設定

- ・廃材を利用したパネルの設置
- ・ファブリック素材を使用したステージパネルの設置
- ・プラスチックごみ、紙ごみ削減を目的とした給水スポットの設置
- ・水平リサイクル実現に向けた消費者の行動意識変容を促すペットボトルポスの設置

Q.2 SB会議に参加して、自社で共有したいと思った取り組み、その理由を教えてください。

株式会社グローバルプロデュース 太田 大地

セッション会場、展示ブース全てにサステナブルな取り組みが実装されており、その様子や方法を共有したいです。カンファレンスや出展社の意向から、どうしてもサステナブルではない仕様によるイベントを計画することも多く、それが一概に悪ということでもないかもしれませんが、SB会議をベンチマークとして、今後参考にできればと思いました。

株式会社クラフティ 石田知大

SB会議「Sustainable Event Professional Forum 2025」内のトークセッション①「イベントの資源循環率可視化への挑戦」でレコテック株式会社大村さんがお話しされていたサーキュラーエコノミーについてのお話に新しい発見が多くあったので、その内容を自社で共有したいと思いました。弊社ではモニターやLEDを自社で製造していますが、現状自社で製品を作る際にGHG排出量がどのくらい発生しているかは考えたこともありませんでした。実際弊社で作っているモノの商流を見ていくと、多くの部分でGHG排出をしていることがわかりました。今回のSB会議で自分の所属している会社の製品を新しい角度から捉えることができました。弊社商品のGHG排出に関してまずはできる限り数値化したうえで、将来的にはサーキュラーエコノミーに寄与していければ良いと思いました。また、長期的な目標としてサステナブルな製品を提供しサステナブルな経営を行うことでビジネスチャンスをつかめる企業になれば最高だと思いました。

株式会社JTB 北島 淳孝

上記に記載したような取り組みはすべて共有したいが、何よりもまずはサステナビリティガイドブックを参考に「環境面」から取り組めることから取り組んでいこうと自社では発信していきたいです。博展・白川さんもSB会議のフォーラムでも仰っていたが、当初は何から始めていけば分からなかったがTCVBサステナビリティガイドブックを参考にした暦年での取り組みの積み重ねが、ここまでの実績を作り上げたとの事でした。全体方針を立てて進めていくことが理想かもしれませんが、方針を立てないと何も始められないという固定概念に捕らわれず、一部分でも取り組めることから実行に移していきたいと思います。そしてその結果を可能な限り定量的にデータの開示と蓄積にトライしてみて、次はどう繋げていくかを考える過程で、全体の方針が見えてくるケースもあると思いました。

Q.3 SB会議を題材に「使いやすいサステナビリティガイドブック」活用のワークショップを行いました。ワークショップやSB会議での視察を通して、得ることが出来た学びを教えてください。

株式会社グローバルプロデュース 太田 大地

サステナブルガイドラインやチェックリスト等、目にする機会はあったものの、どのように自社に取り入れるべきなのかが理解できていなかったが、ワークショップを通じて理解できたので社内でも改めて共有できればと思った。会場内で見えること以外に、裏側でも炭素排出量の計測や廃棄物周りの管理等にもサステナブルな取り組みが施されているというお話も非常に参考になった。

株式会社クラフティ 石田知大

私は今回のワークショップを行うまで「使いやすいサステナビリティガイドブック」を作成した目的でもあるサステナビリティに配慮したイベントを実現するために必要なのは、あくまでもイベントを企画する方々の働き掛けが重要であり、私の会社のようなサプライヤーが問題解決に向けてアクションを起こすことは難しいと考えていました。ですがワークショップやSB会議を視察する中で、サプライヤー側にも取り組めることが多くあることを学びました。我々サプライヤー側にもイベントのサステナブル化に大きく影響を与えられる可能性があるかと強く感じました。また、影響を与える一歩としてまずは会社内でサステナブルイベント・MICEチェックリストの作成をしてみて、自分たちの会社でできることは何なのか考えてみて、できそうなことからチャレンジしてみようと思います。

株式会社JTB 北島 淳孝

学びを得たことが大きく2つあります。一つ目は、イベントには経済波及効果のようなプラスのインパクトがある一方で、CO2排出量を始めた環境面にマイナスインパクトが発生していることを改めて認識しました。何も手立てをしなれば、環境は悪化しイベント自体を開催することすらできない危機感を感じましたし、一方で何か行動を起こせば負荷を少しでも下がられるチャンスだとワークショップを通じて理解しました。2つ目は、SB会議の視察を通じて、イベントという非日常の空間で見たり感じたサステナビリティの取組は印象にとっても残りやすいと思いました。イベントを通じたサステナビリティの認知、理解浸透させる仕掛けが、日頃の行動変容を促すきっかけになればイベント価値を更に高められると感じたことで、イベントそのもの又はイベント業界が持つ力を改めて感じました。